

第8回 家畜感染症学会シンポジウム  
平成30年6月2日(土)  
於:東京大学農学部

## 第2回 牛の感染症に関する 全国アンケート

小熊圭祐

家畜感染症学会事務局

日本大学 生物資源科学部



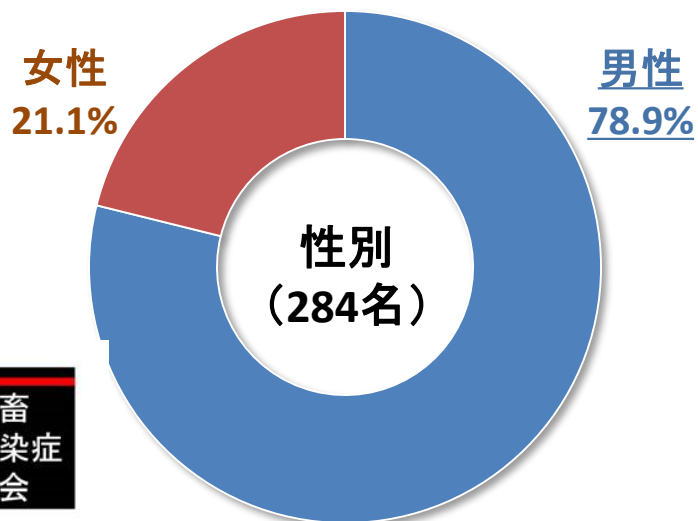
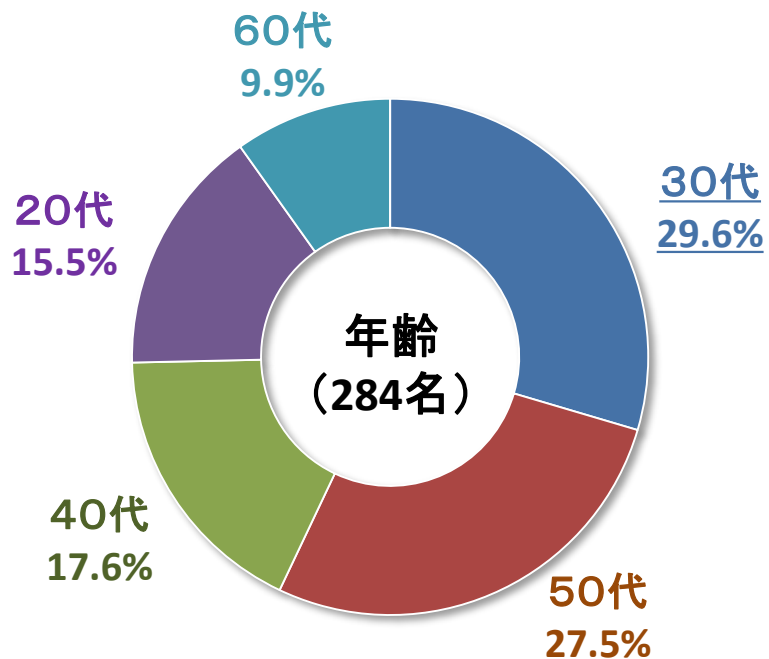
## はじめに

- 感染症は獣医師が積極的に介入し、治療や予防を行う必要がある。
- 現場の獣医師が各現場で問題視している感染症や、診断や治療、予防に際して問題が生じている状況はそれぞれ異なる。
- その把握や共有が困難であるため、本アンケートにより調査を行った。

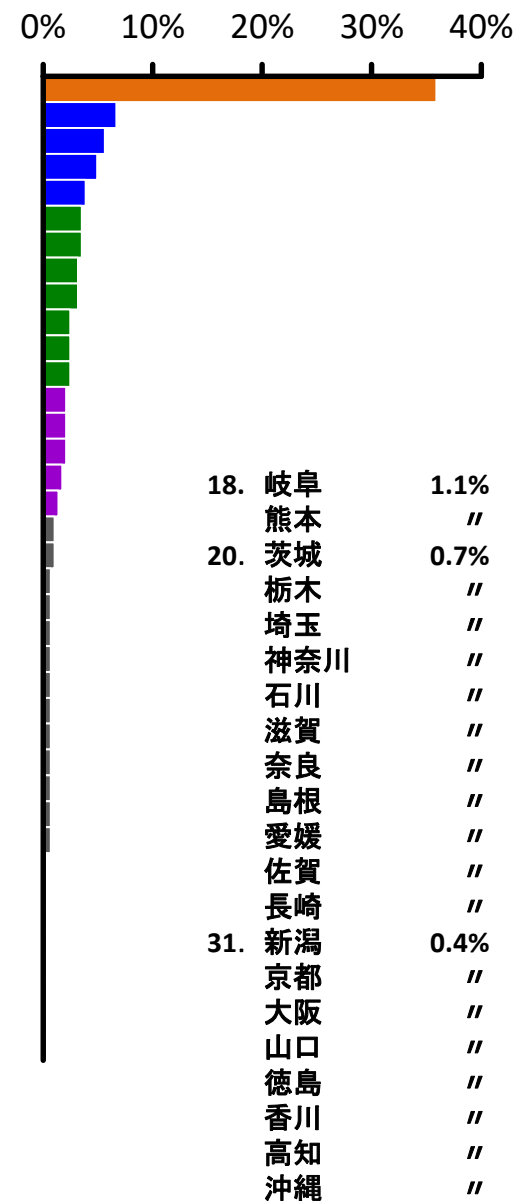
## 調査方法

- 2018年2月下旬から同年4月初旬までアンケートを本学会HPにて公表し、紙面でも配布して、得られた回答を集計した。
- 回答者：多くの回答をいただきたいため、本学会員だけでなく非学会員も参加可能な形式とした。

## Q1～Q3) 回答者の年齢・性別と勤務地

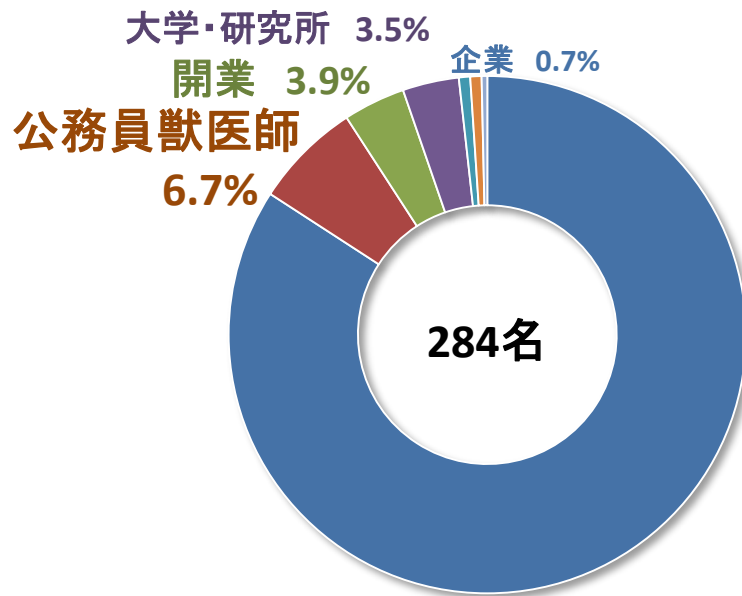


1.	北海道	35.9%
2.	鹿児島	6.7%
3.	宮城	5.6%
4.	千葉	4.9%
5.	大分	3.9%
6.	兵庫	3.5%
7.	岡山	//
8.	富山	3.2%
	広島	//
10.	福島	2.5%
	群馬	//
	鳥取	//
13.	岩手	2.1%
	福岡	//
	宮崎	//
16.	愛知	1.8%
17.	山形	1.4%



## Q4, Q5) 職種と業務対象の牛の種類

### 職種

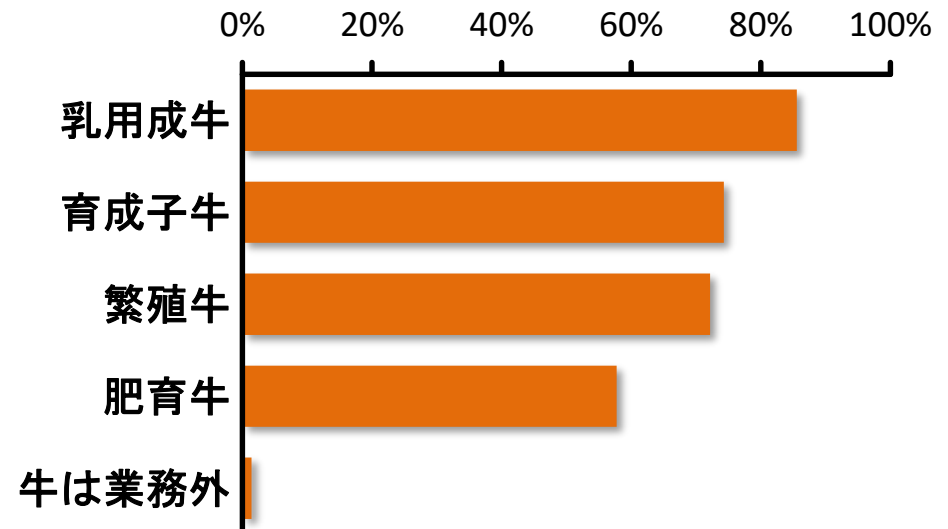


NOSAI 獣医師

239名 (84.2%)

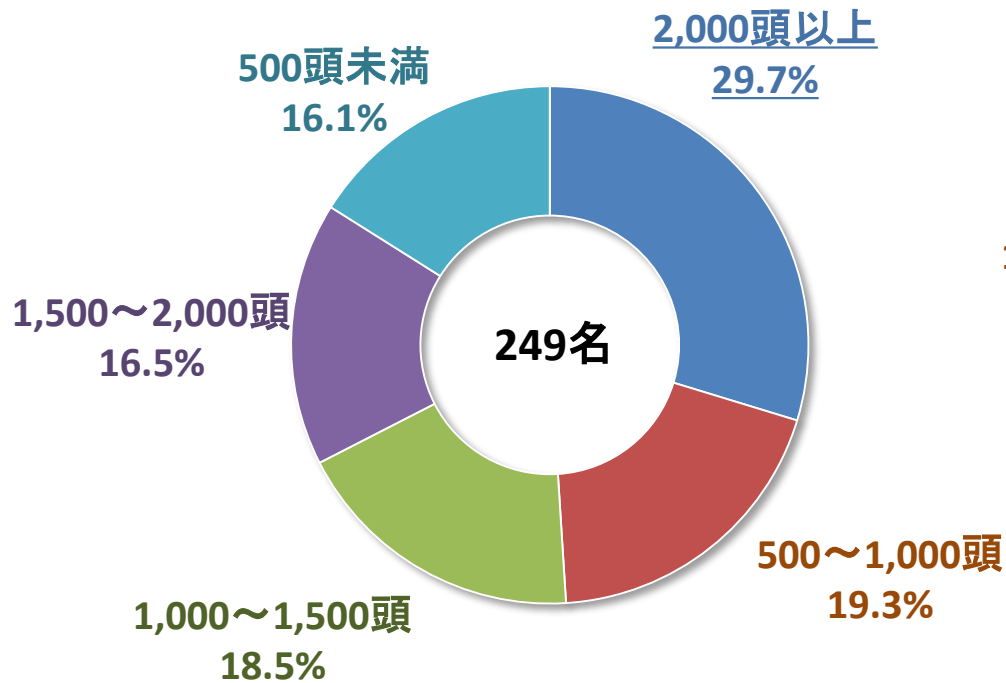
(男性: 79.1%, 女性20.9%)

### 業務対象となる主な牛 (全種類選択可, 回答者数: 284名)

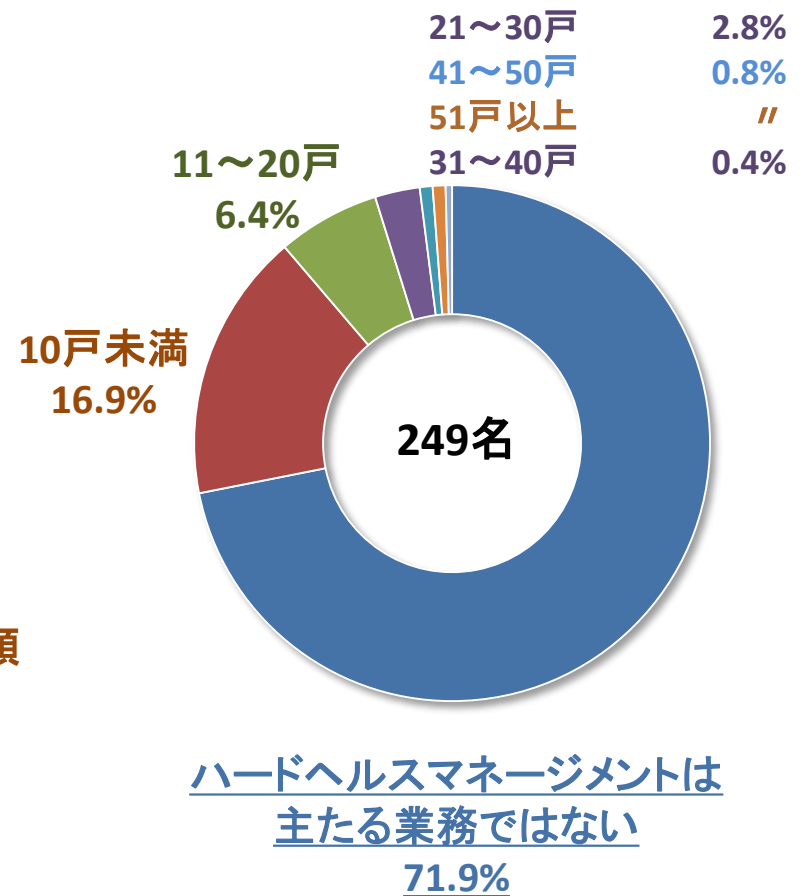


# Q6, Q7) 1年間の診療頭数およびハードヘルスマネージメントの担当戸数

## 1年間の延べ診療頭数

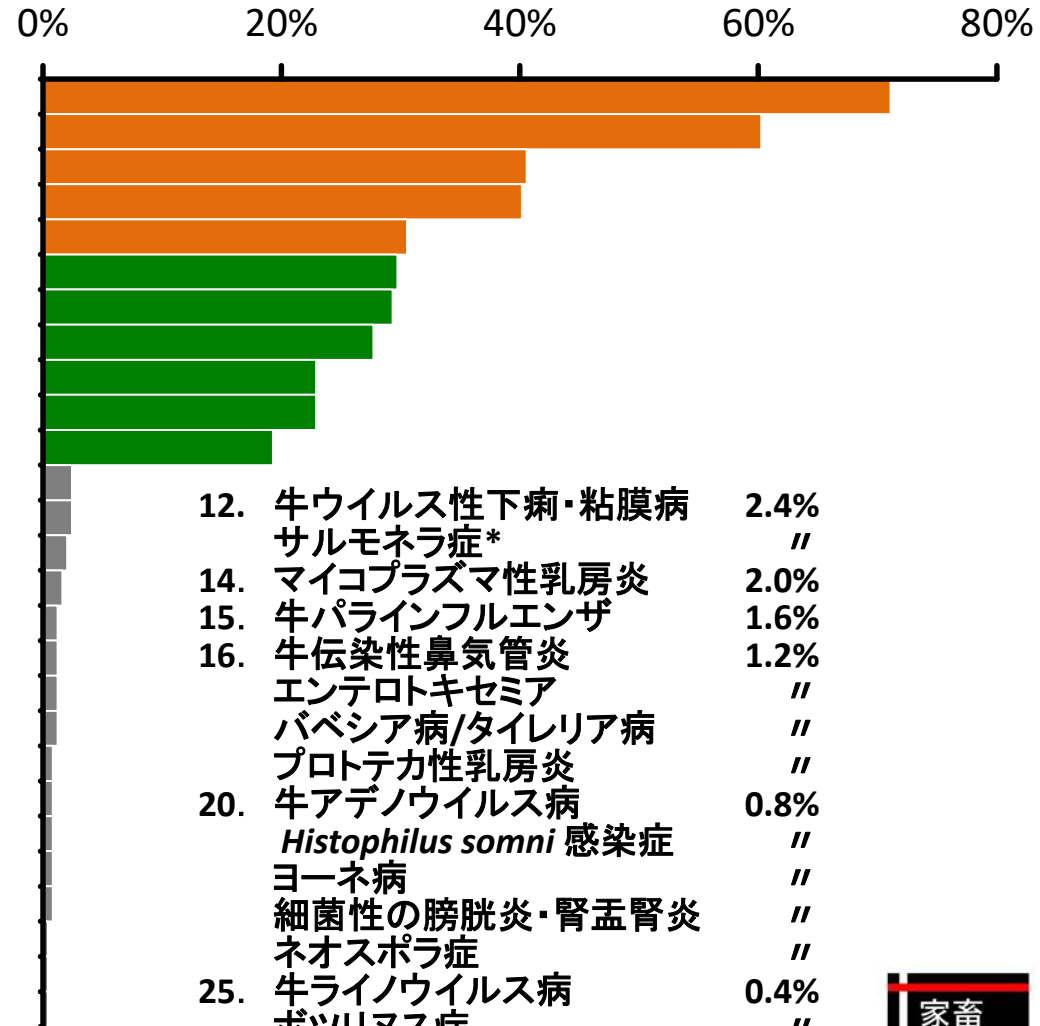


## ハードヘルスマネージメントの担当戸数



## Q8) 業務管内で最も発生が多い牛の感染症(5個以内)

1. 細菌性乳房炎	71.1%
2. コクシジウム症	60.2%
3. 子牛の大腸菌性下痢	40.6%
4. 牛ロタウイルス病	40.2%
5. マイコプラズマ肺炎	30.5%
6. 牛RSウイルス病	29.7%
7. クリプトスポリジウム症	29.3%
8. 牛白血病(未発症含む)	27.7%
9. パスツレラ(マンヘミア)症	22.9%
10. マイコプラズマ中耳炎	22.9%
11. 牛コロナウイルス病	19.3%

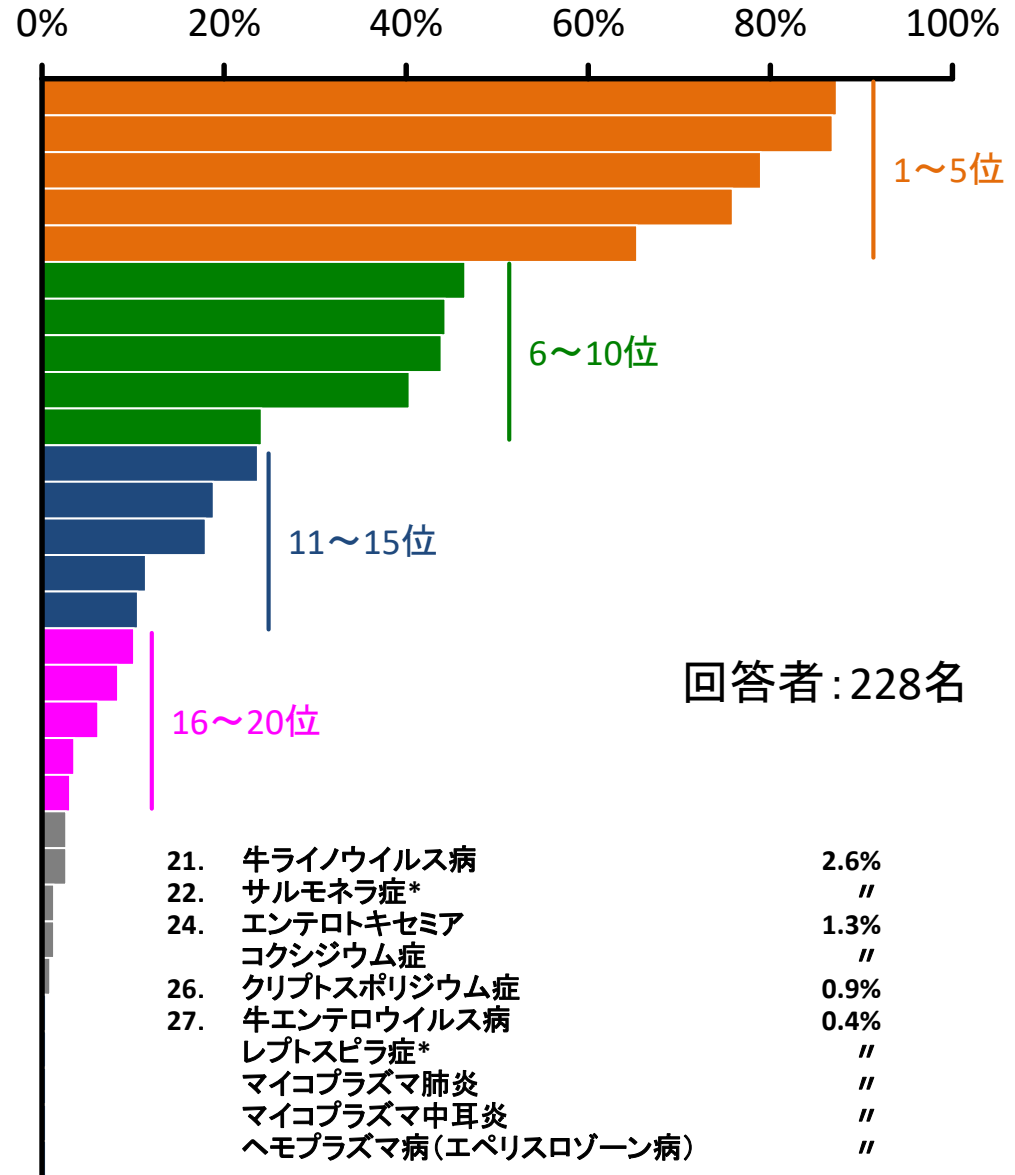


回答者: 249名

\* サルモネラ症は届出対象ではない血清型も含む

## Q9) 積極的にワクチンを接種している疾患(10個以内)

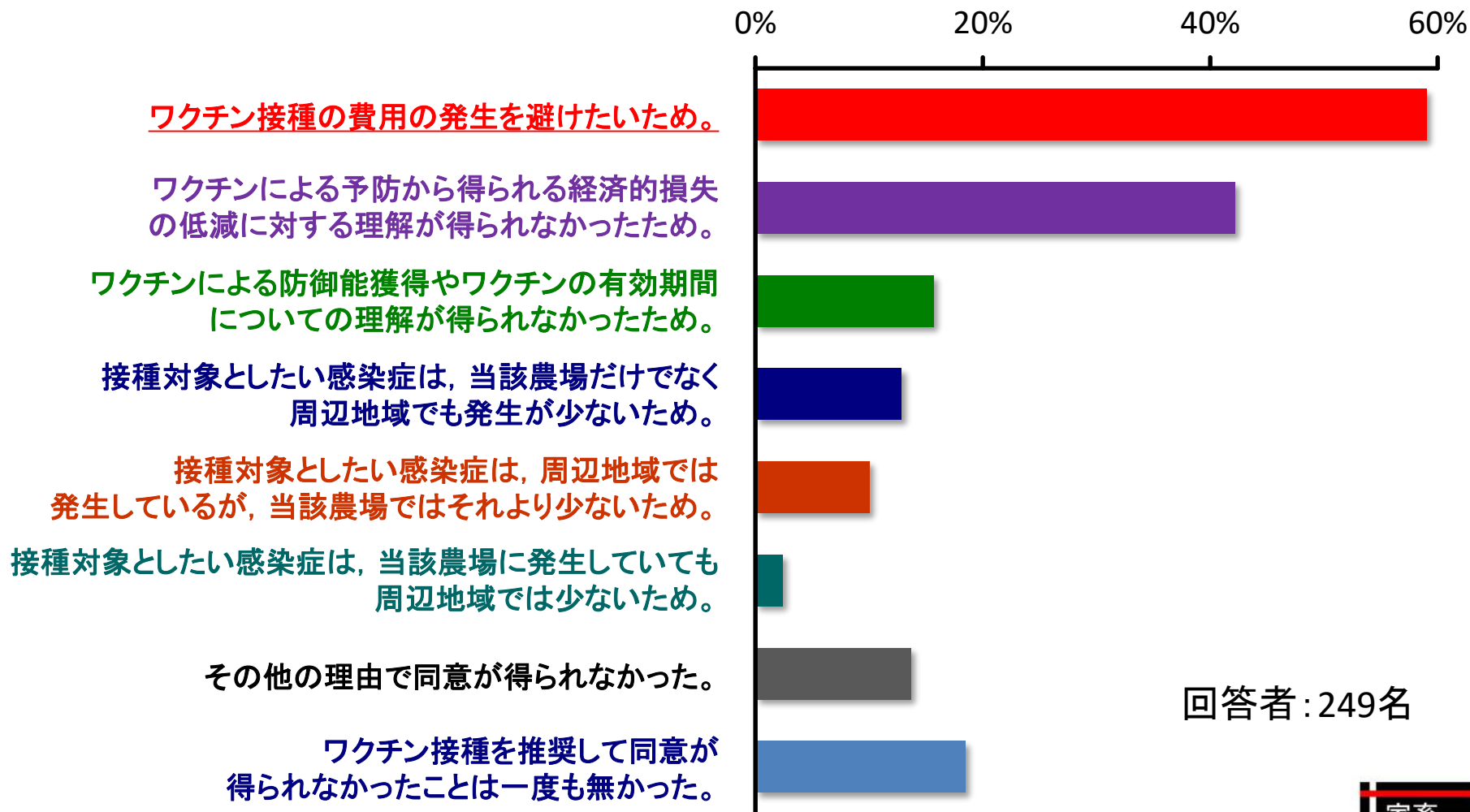
1.	牛RSウイルス病	87.3%
2.	牛伝染性鼻気管炎	86.8%
3.	牛ウイルス性下痢・粘膜病	78.9%
4.	牛パラインフルエンザ	75.9%
5.	牛アデノウイルス病	65.4%
6.	牛コロナウイルス病	46.5%
7.	牛ロタウイルス病	44.3%
8.	子牛の大腸菌性下痢	43.9%
9.	アカバネ病	40.4%
10.	アイノウイルス感染症	24.1%
11.	チュウザン病	23.7%
12.	細菌性乳房炎	18.9%
13.	<i>Histophilus somni</i> 感染症	18.0%
14.	パスツレラ(マンヘミア)症	11.4%
15.	気腫疽	10.5%
16.	牛流行熱	10.1%
17.	悪性水腫	8.3%
18.	イバラキ病	6.1%
19.	ボツリヌス症	3.5%
20.	破傷風	3.1%



回答者:228名

\*届出対象ではない血清型も含む

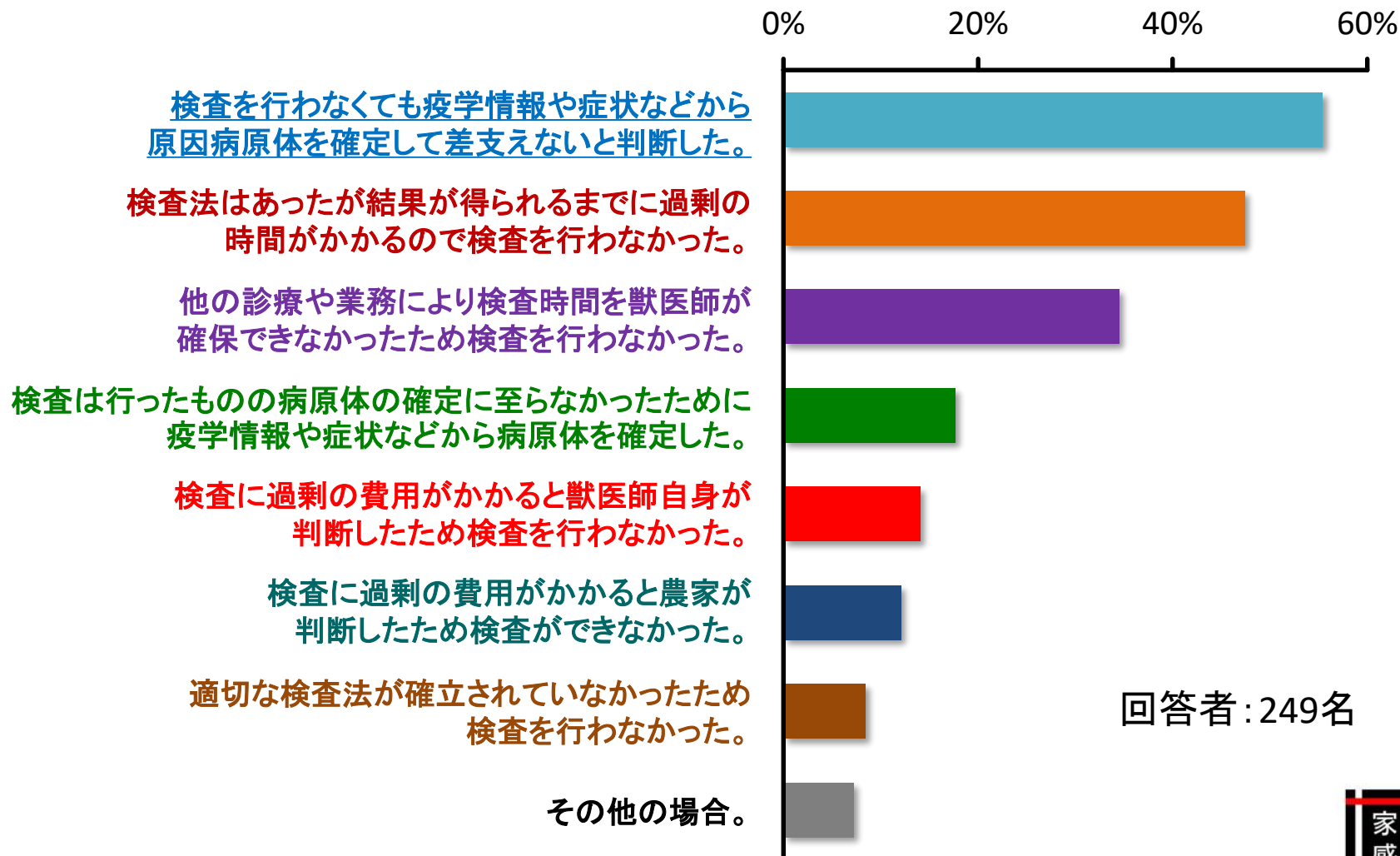
Q10) ある感染症に対するワクチン接種を推奨したにもかかわらず農家から同意が得られなかった理由(3個以内)



回答者: 249名



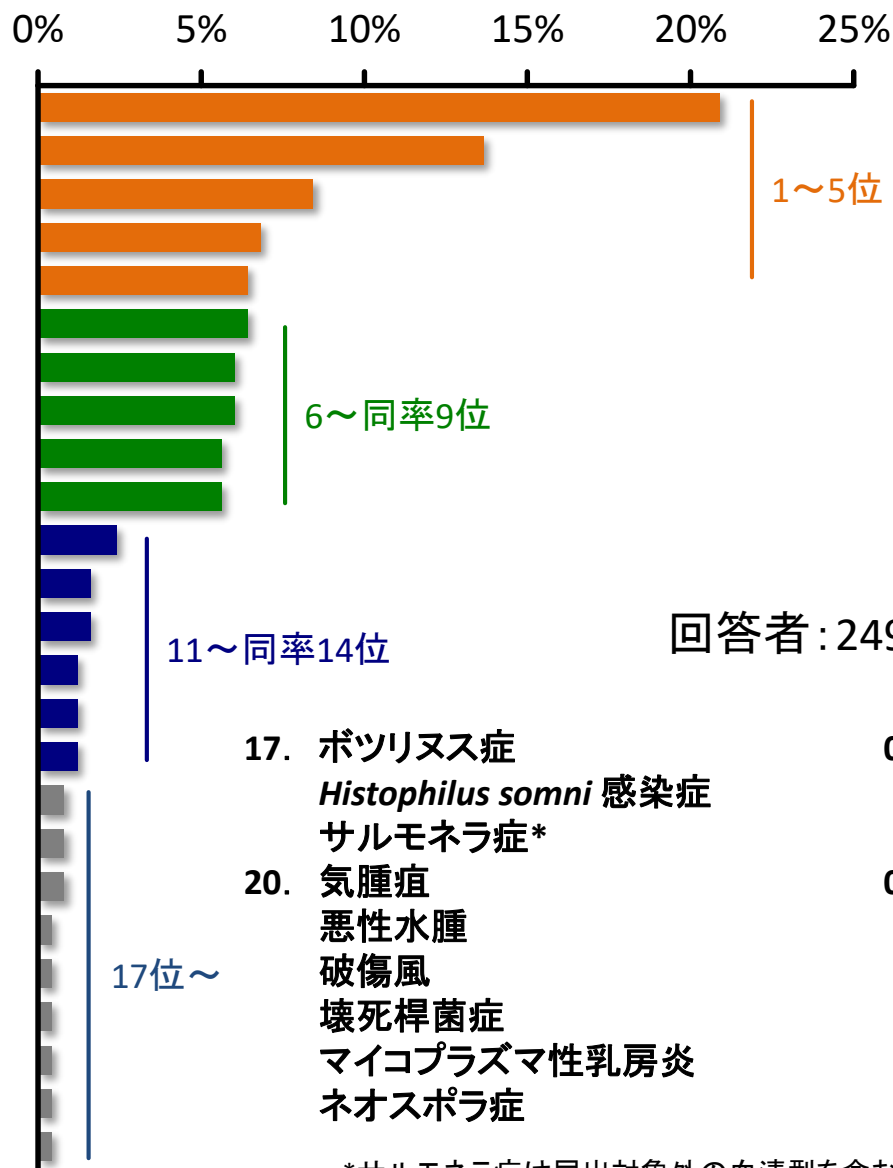
Q11) 感染症を強く疑う症状・所見を示す、または示していた牛の診断について病原体または抗体を検出せずに原因病原体の推定を行ったのはどのような場合が最も多かったか(3個以下)



回答者: 249名

Q12) Q11で回答した状況が最も多かった感染症を1個選択  
 (病原体または抗体を検出せずに原因病原体を推定した状況が最も多かった疾病)

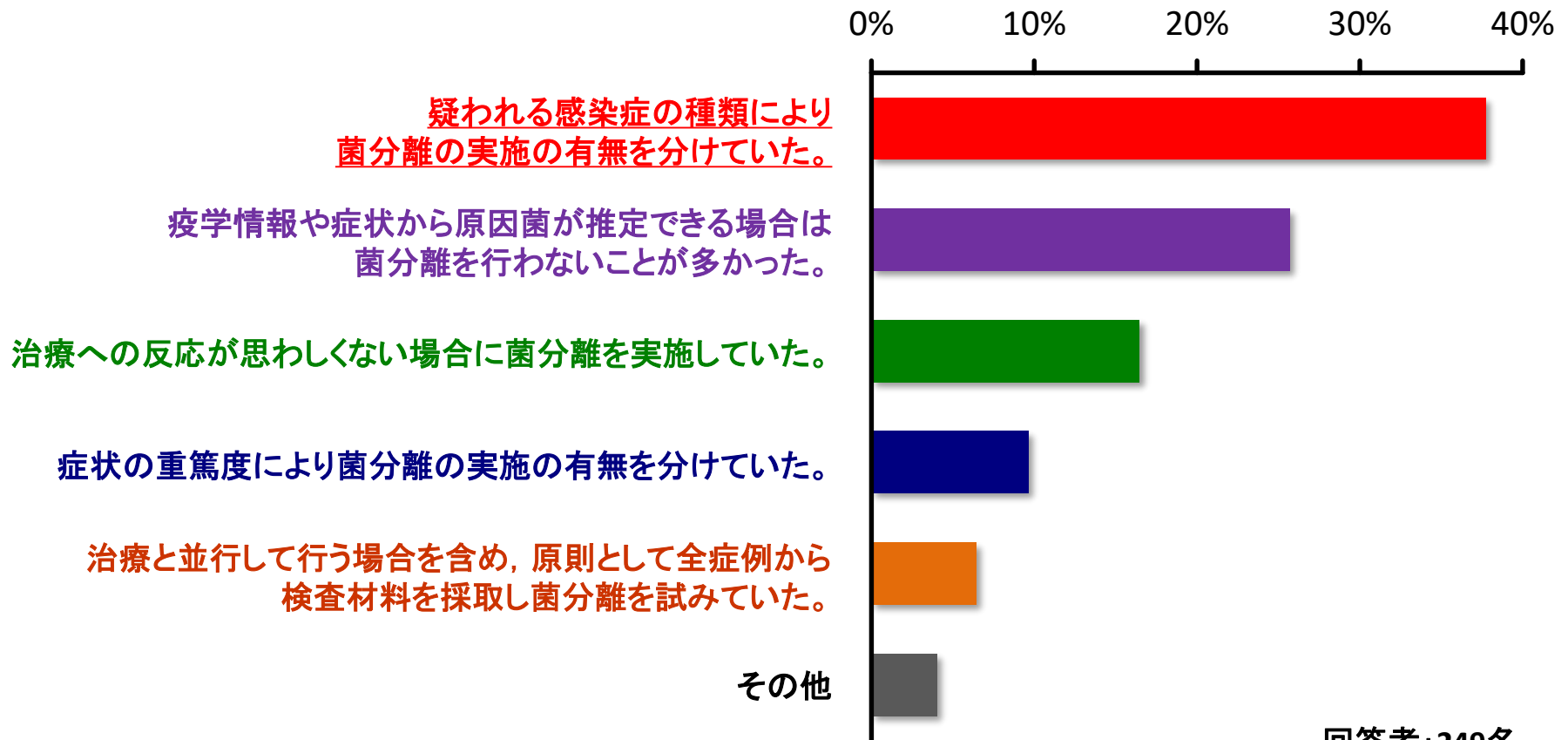
1.	牛RSウイルス病	20.9%
2.	細菌性乳房炎	13.7%
3.	コクシジウム症	8.4%
4.	牛白血病(未発症含む)	6.8%
5.	マイコプラズマ肺炎	6.4%
6.	マイコプラズマ中耳炎	6.4%
7.	牛コロナウイルス病	6.0%
	子牛の大腸菌性下痢	//
9.	牛ロタウイルス病	5.6%
	クリプトスポリジウム症	//
11.	パスツレラ(マンヘミア)症	2.4%
12.	牛伝染性鼻気管炎	1.6%
	アカバネ病	//
14.	牛ウイルス性下痢・粘膜病	1.2%
	リステリア症	//
	エンテロトキセミア	//



回答者: 249名

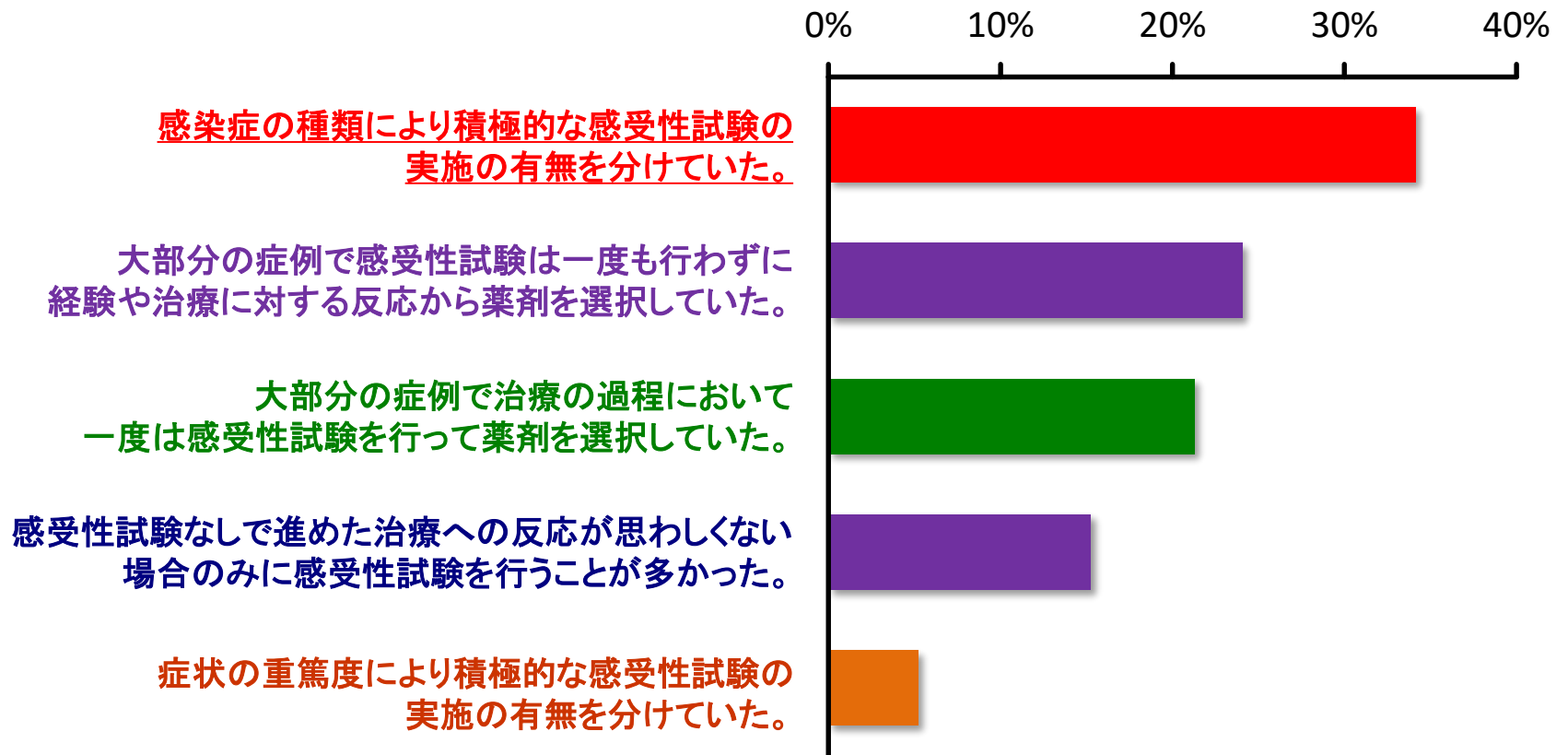
\*サルモネラ症は届出対象外の血清型を含む。

Q13) これまでの業務における細菌性感染症を疑う初診の症例からの菌分離について、あてはまるものを1個選択



回答者: 249名

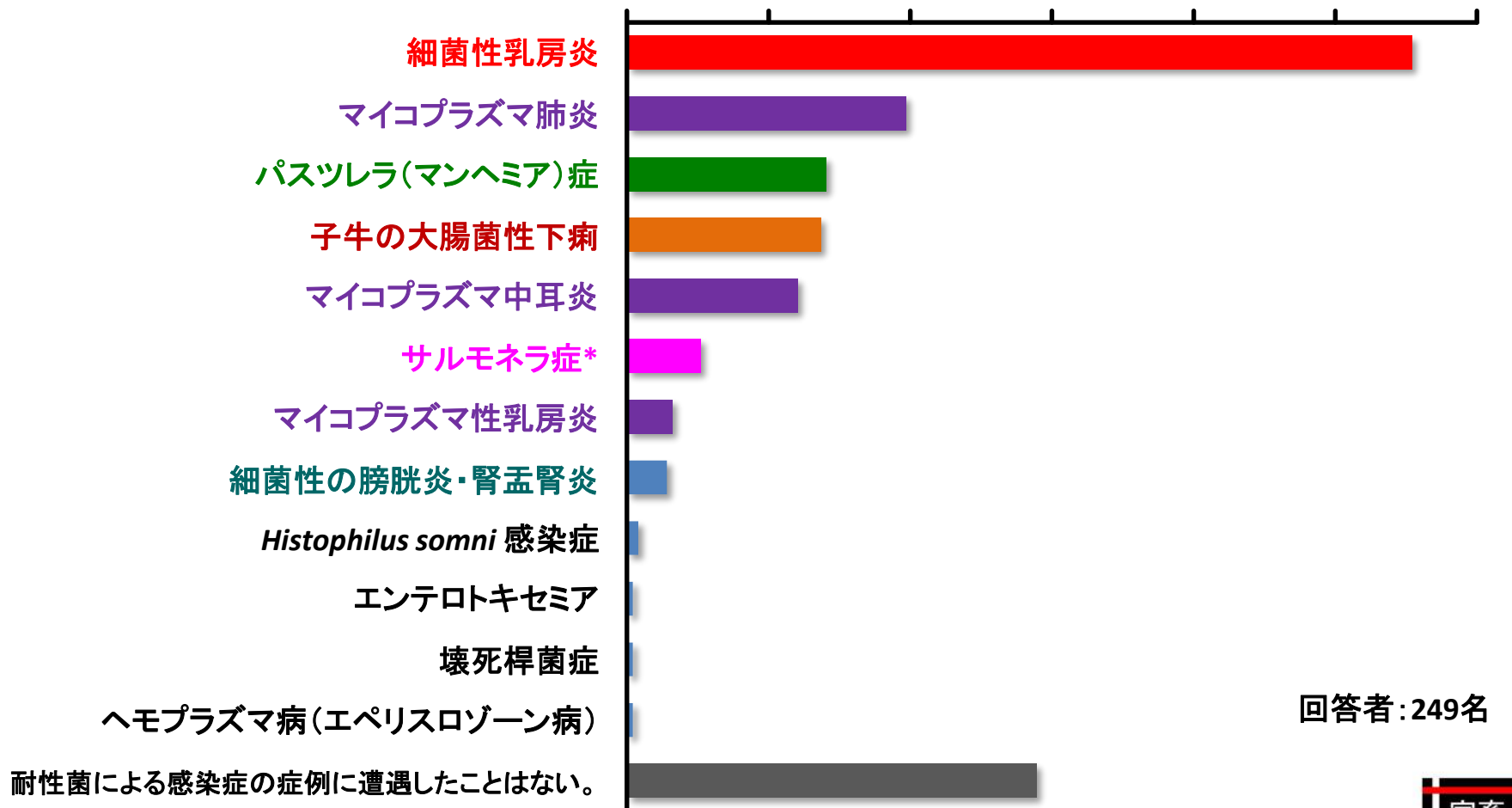
Q14) 細菌の分離が可能であった細菌性感染症において、薬剤感受性試験を実施するかどうかの判断として、あてはまるものを1個選択



回答者: 249名

Q15) 細菌およびマイコプラズマによる感染症のうち、薬剤感受性試験等の検査から耐性菌が原因であったことが判明したものを、最大5個まで選択

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60%



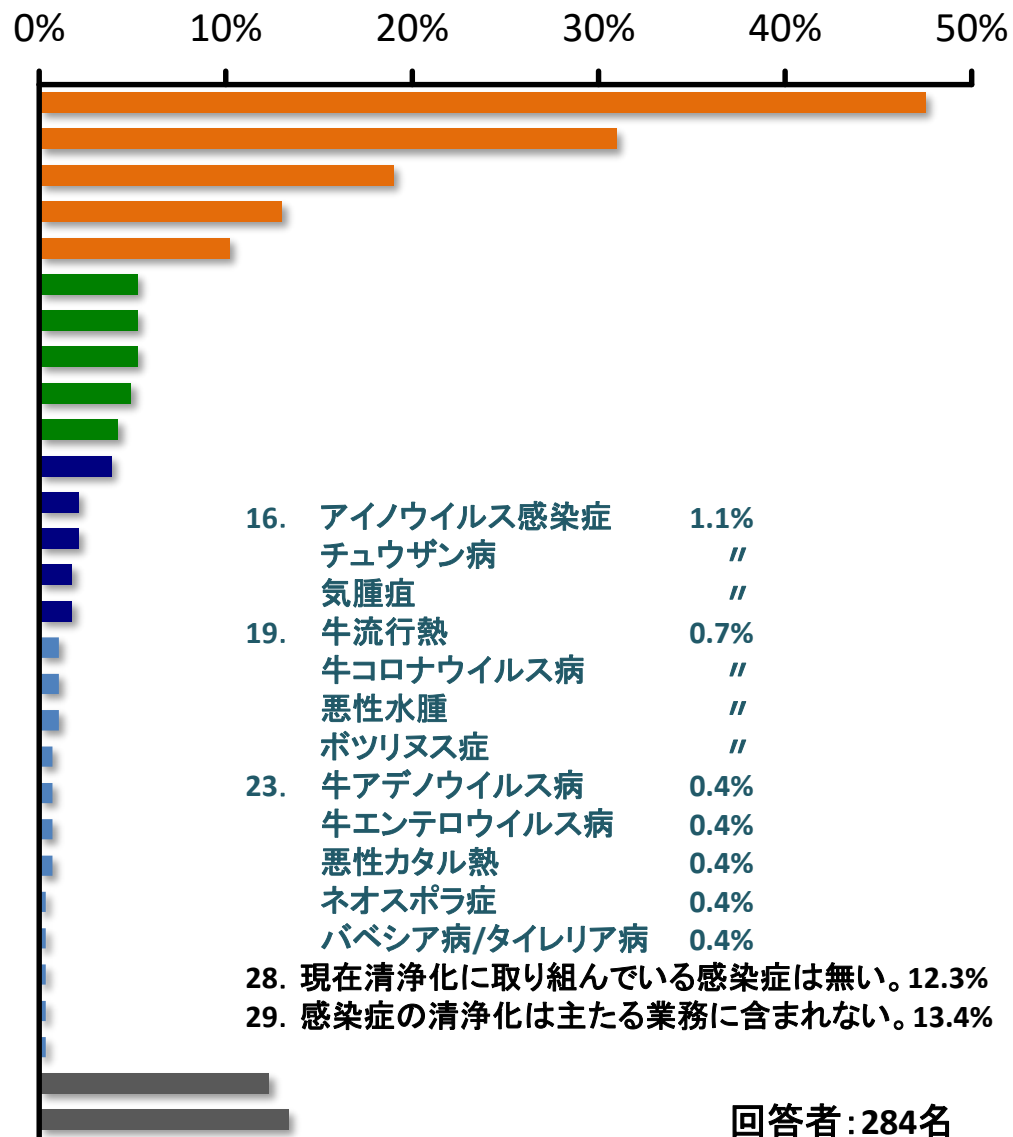
回答者: 249名

\* サルモネラ症は届出対象ではない血清型も含む。

Q16) 個々の農家単位または業務管内農家全体において隔離や摘発淘汰などによる清浄化を積極的に進めている感染症を5個まで選択

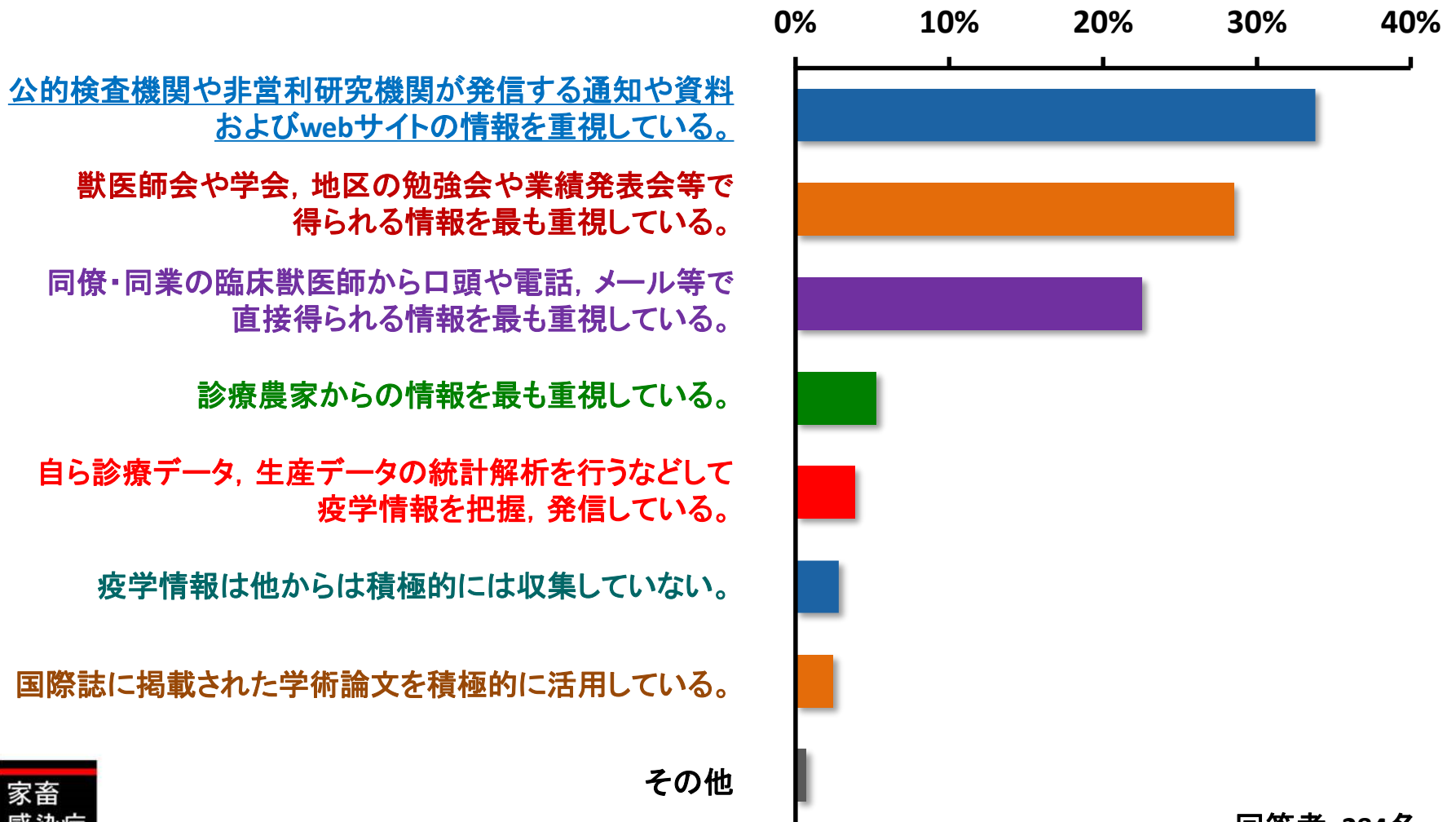
1. 牛白血病	47.5%
2. 牛ウイルス性下痢・粘膜病	31.0%
3. サルモネラ症*	19.0%
4. マイコプラズマ性乳房炎	13.0%
5. 細菌性乳房炎	10.2%
6. マイコプラズマ肺炎	5.3%
コクシジウム症	//
プロトテカ性乳房炎	//
9. 牛RSウイルス病	4.9%
10. クリプトスポリジウム症	4.2%
11. マイコプラズマ中耳炎	3.9%
12. 牛伝染性鼻気管炎	2.1%
子牛の大腸菌性下痢	//
14. アカバネ病	1.8%
15. パスツレラ(マンヘミア)症	//

\* サルモネラ症は届出対象ではない血清型も含む。



回答者: 284名

Q17) 業務管内の家畜の感染症に関する疫学情報の収集について  
最もあてはまるものを1個選択



公的検査機関や非営利研究機関が発信する通知や資料  
およびwebサイトの情報を重視している。

獣医師会や学会, 地区の勉強会や業績発表会等で  
得られる情報を最も重視している。

同僚・同業の臨床獣医師から口頭や電話, メール等で  
直接得られる情報を最も重視している。

診療農家からの情報を最も重視している。

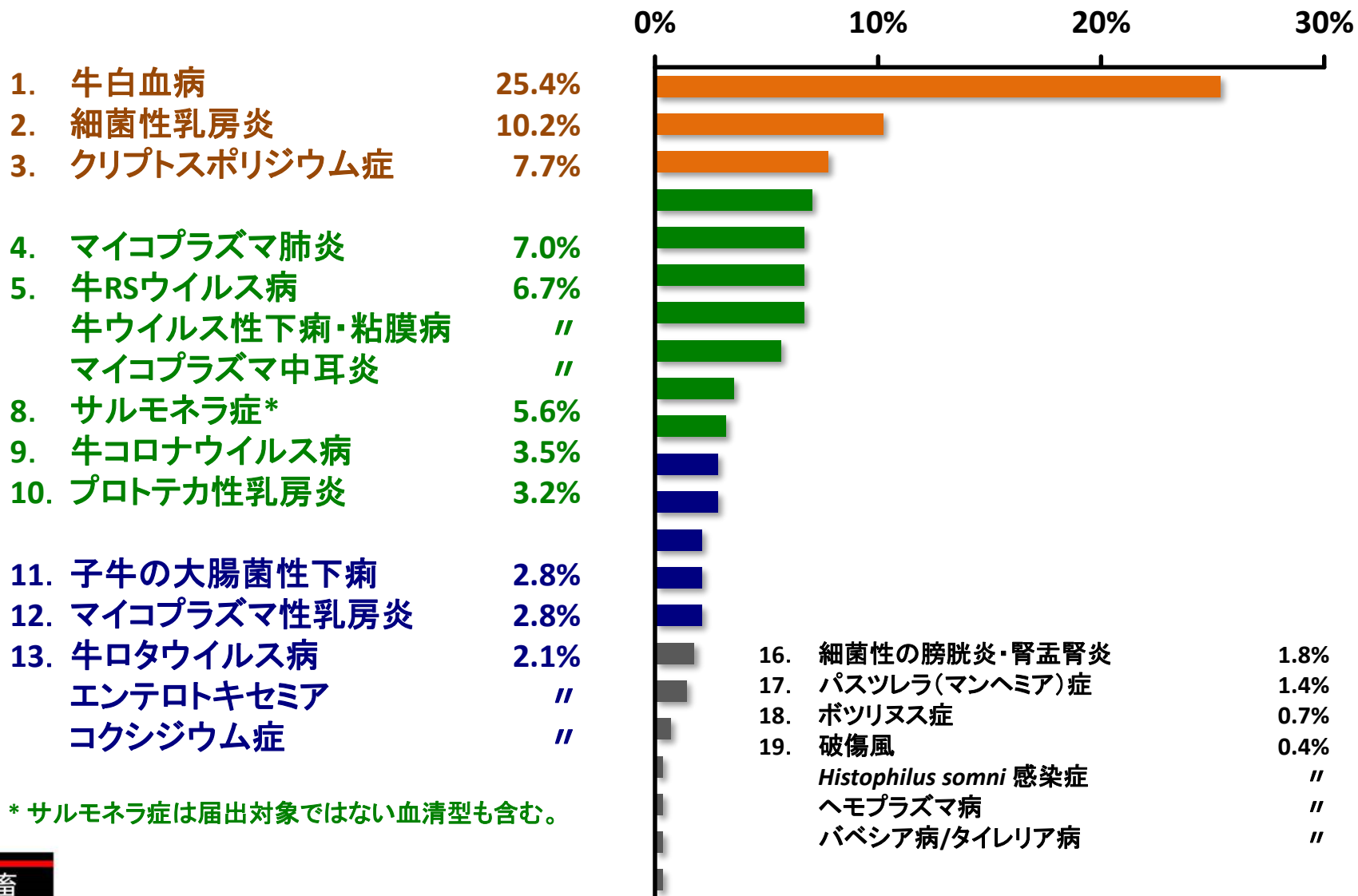
自ら診療データ, 生産データの統計解析を行うなどして  
疫学情報を把握, 発信している。

疫学情報は他からは積極的には収集していない。

国際誌に掲載された学術論文を積極的に活用している。

その他

Q18) 今後、本学会で特集を組むことを希望される感染症を1個選択



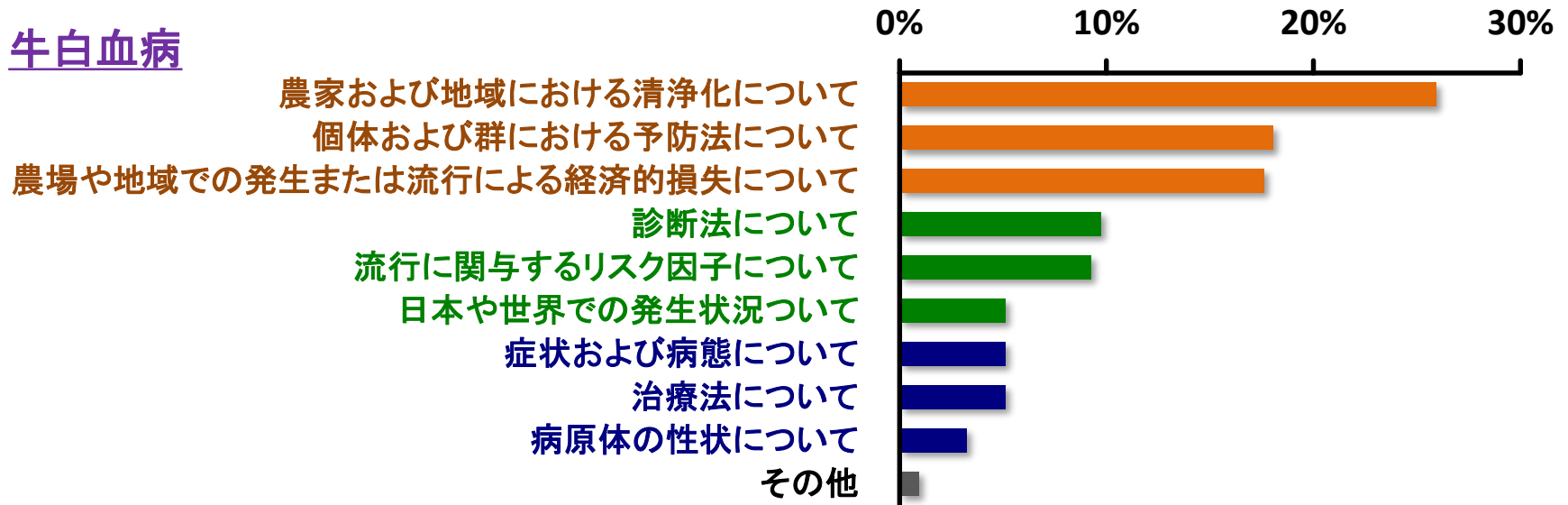
\* サルモネラ症は届出対象ではない血清型も含む。

回答者:284名

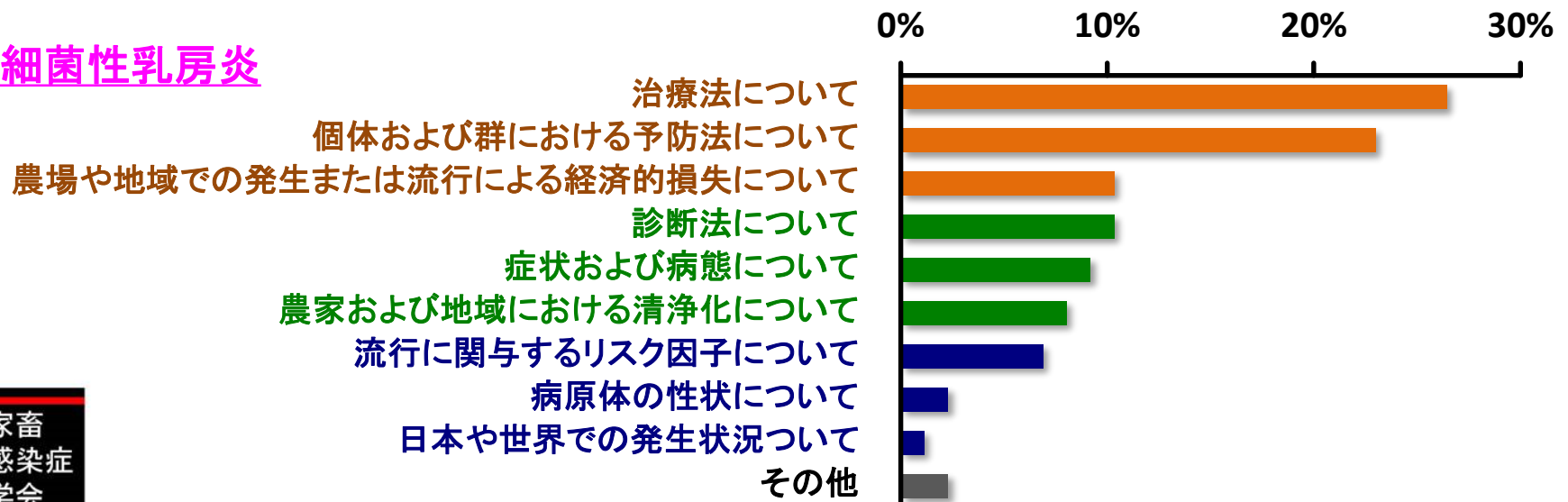


Q19) Q18でご回答いただいた感染症について、中心となる内容として望ましいと考えるものを3個選択

## 牛白血病



## 細菌性乳房炎



# まとめ

- 本アンケートから、牛の獣医師が危機感を抱いている感染症が明らかとなった。
- ワクチン接種が接種できない状況
  - 費用, ワクチンの効果への理解度
- 薬剤耐性菌による感染症には頻繁に遭遇している。
  - 特に細菌性乳房炎
- 清浄化を進めている感染症として回答が多かったもの
  - 牛白血病, 牛ウイルス性下痢・粘膜病, サルモネラ症
- 本学会に情報を求めている感染症として最も多く挙げられたもの
  - 牛白血病, 細菌性乳房炎, クリプトスポリジウム症,  
マイコプラズマに関連した疾患(肺炎・中耳炎・乳房炎)